

# 岩手県から北海道へ

氏名 佐藤尚彦

岩手県一関市立川崎小学校 → 北海道千歳市立祝梅小学校  
(期間：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

## 1 岩手県一関市の教育

### ○ 岩手県一関市の教育

一関市は「学びの風土を礎に心豊かにたくましく郷土の誇りを未来につなぐ一関の人づくり」を基本目標として、3つの「基本方向」、4つの「重点プロジェクト」、16の「基本施策」から成っている。中でも陰山メソッド（百マス計算・音読）の導入、ことばの時間の設定などは、市独自の取組として行っている。

#### ・陰山メソッド

集中力・処理速度・自己肯定感を高めることを目的として、市独自に陰山メソッドを導入し、モジュール時間（毎日の短時間学習）での百ます計算の取組を行っている。

#### ・「ことばの時間」の設定（児童も教師も楽しい時間に・児童をほめたり認めたりする時間に）

ことばを大切にしている教育プロジェクトとして、「ことばのテキスト（言海）」を活用し、名文や古典文学に触れることを通して、「ことばの響き」を学ぶ教育を行っている。

## 2 学校や地域の特色ある教育活動

一関市立川崎小学校では、伝統的に受け継がれている「布佐神楽」を教育の一環として設けている。高学年になると運動会で布佐神楽を披露し、その姿は下学年からの憧れとなっている。下学年は高学年や地域で踊りを伝承している方々から神楽を学び、それをまた次の世代へと引き継いでいる。

川崎町には、保育園、小学校、中学校がそれぞれ1校ずつあり、連携を密にしながら教育活動を展開している。



### 【学習指導の充実と学力向上】

#### ○わかる授業の創造

岩手の授業づくり3つの視点（学習の見通し・学習課題を解決するための学習活動・学習の振り返り）を取り入れた「分かる授業」づくり。

定着状況の把握と学調分析（課題点の克服のために）を生かした授業改善

## ○基礎学力や学習規律の定着

「ことばの時間」の活用。漢字及び文章・計算テストの実施

話す・聞く・返事の仕方や学習準備・ノートの記入方法等の学習規律の徹底

## ○きめ細かな指導

学力・学習状況調査の分析

学力・学習状況調査（全国学調・県学調・CRT）の課題点を克服するためのTT指導

## ○家庭学習の習慣化

「家庭学習ガイド」の活用。授業と連動した家庭学習の工夫

「家庭学習がんばりウィーク」を年2回実施する

テレビ視聴時間。ゲーム使用時間のコントロールに向けた働きかけ

「ノーメディア day」の継続と推進

## 【川崎小10の約束】

- ①場に合った言葉づかいをする
- ②話は目と耳で聞く
- ③時間を守って行動する
- ④家庭学習を忘れず行う
- ⑤本をたくさん読む
- ⑥明るく元気なあいさつをする
- ⑦名前は「さん」をつけてよぶ
- ⑧廊下は静かに歩く
- ⑨静かに一生懸命掃除をする
- ⑩進んで運動をする

これらの約束を各教室に掲示し、学期ごとに振り返りをしながら、約束を意識して学校生活を送っている。

## 3 私に取り組んできた実践

派遣元校では、下記のような取組を行ってきた。

### ○ 授業の充実

- ・子どもたちにとって「魅力的な」課題、「必要感のある」課題の設定
- ・思考を揺さぶる発問の設定（二分される、読み違う、反論が起こる等）
- ・考えを一つに決める、根拠を見つける、理由を聞き合う等の伝え合う目的の明確化

### ○ 家庭学習の充実

音 読：音読カードを作成し、保護者の協力を得ながら、音読の習慣化を図った。毎日の音読を保護者にチェックしてもらい、1か月ごとに取組の反省を子どもたち自身で振り返りを行った。

宿 題：計算や漢字を中心に、学習進度に応じてプリントや、漢字・計算のドリルに取り組む。

一人勉強：漢字計算はもちろん、社会・理科・英語などの学習にも取り組む。一人勉強レシピを配布し、何をやるか困ったときにはそれを参考にし、土日を含め毎日取り組めるようにした。

### ○ 体力向上

体力向上に向け、60運動、マラソン・なわとびカード（中休み）、市内陸上大会（高学年）に向けての取組などを学校全体で行った。また、体育では、1単位時間50%の運動量の確保を意識し、授業始めにサーキットやなわとびなども行った。